

2018年秋 “グループわ” 北区会親睦バスツアー

「世界遺産高野山」を訪ねて

日 時 平成 30 年 10 月 24 日 (水)

行 程 (計画) 神鉄谷上駅 07 ; 40 出発 ⇒ しあわせの村 08 ; 00 経由 ⇒ しあわせの村 IC ⇒ 《阪神高速・阪和道・京奈和道》 ⇒ かつらぎ西 IC ⇒ 高野山奥の院参拝 (10:45~12:30) ⇒ 昼食会 (中本名玉堂 12:40~13:40) ⇒ 金剛峯寺/ 壇上伽藍 (見学/13:50~15:20) ⇒ かつらぎ西 IC ⇒ 《京奈和道・阪和道・阪神高速》 ⇒ しあわせの村 IC ⇒ しあわせの村(18:10) ⇒ 谷上駅 (18 ; 30) 帰着

昨日まで雨模様だったが、本日は雨も止み、午後からは青空も見えまらずの天気の下で“グループわ”北区会員他37名が参加して、親睦バスツアーを実施した。

高速道路を降り、かつらぎ西 IN からは連続カーブ道を1時間半ほど登り、10時45分に中の坊駐車場に到着し、奥の院→金剛峯寺などを参拝した。

帰路は特に交通渋滞もなく、しあわせの村、谷上駅には1時間ほど早く帰着した。



パーキングエリアにてトイレ休憩後バスに乗車



車内の様子



高野山[中の院駐車場]に到着

高野山

和歌山県北部、和歌山県伊都郡高野町にある周囲を1,000m級の山々に囲まれた標高約800mの平坦地を指す。平安時代の弘仁7年(816年)に嵯峨天皇から空海(弘法大師)が下賜され、修禅の道場として開いた日本仏教における聖地の1つである。(インターネットより)

高野山奥の院

国の史跡・世界遺産。御廟橋の先に灯籠堂、その裏に空海の御廟がある。参道には、皇室、公家、大名、企業、私人などの墓が多数並び、その総数は正確には把握できないものの、20万基以上はあると言われている。戦国大名の6割以上の墓所がある。奥の院の入り口は2箇所あり、正式には一の橋からであるが、中の橋の前には無料大駐車場とバス停があるので参拝者のほとんどがこちらからである。一の橋から御廟までは約2km、中の橋からはその約半分の道のりとなっている。その途上には「弥勒石」などの七不思議と呼ばれる場所がある。(インターネットより)



奥の院参拝の前に梶部ガイドの説明



奥の院参拝に向かって出発



奥の院入口にて清めの手洗い場に向かう



梶部ガイドのユニークな説明を聞きながら、この様なお墓を約1km参拝する



弘法大師（空海）の御廟を望む、これから先は撮影禁止のためお参りのみ



奥の院内の紅葉

奥の院参拝後、「中本名玉堂」にて昼食会を行い、お土産など買い物をした。



中本名玉堂（1階：売り場、2階：食



昼食料理（高野豆腐が柔らかくおいしかった）



昼食の様子



昼食の様子



昼食後、1階でお土産を買う

金剛峯寺

「金剛峯寺」という名称は、お大師さまが『金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇経（こんごうぶろうかくいっさいゆがゆぎきょう）』というお経より名付けられたと伝えられています。

東西 60m、南北約 70m の主殿（本坊）をはじめとした様々な建物を備え境内総坪数 48,295 坪の広大さと優雅さを有しています。（インターネットより）



壇上伽藍

曼荼羅の道場の意の壇場と、梵語のサンガ・アーラーマの音訳で僧侶が集い修行をする閑静清浄な所の意の伽藍の壇場伽藍であるが、一段高い土地にあるため「壇上伽藍」と表記される。高野山内の西寄りの金堂・根本大塔・西塔・御影堂などの立ち並ぶ一画で、高野山の聖地の1つである。ここは、空海が在世中に堂宇を営んだところで、現在の諸堂塔は大部分が江戸時代後期から昭和時代の再建であるが、真言密教の道場としての高野山の中核となる部分である。なお、壇上伽藍には右邊（うによう）という正式な参拝方法がある。（インターネットより）



根本大塔



金堂



六角経蔵



「壇上伽藍」中門をバックに参加者 37 名の記念写真

帰路、国道 24 号線沿いの道の駅「紀の川万葉の里」に寄り、ミカンや柿などのお土産を買った。

